

25 薬価改定に伴う、ダイアライザー品不足に関し（アンケート調査を中心に）

J A長野厚生連佐久総合病院 長針 浩二

はじめに、今回アンケートに御協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

本年薬価改定に伴い、ダイアライザーが10の型別に分類され、価格査定では一部に極端とも思える引き下げがなされた。

その影響から、下げ幅が少なく差益率の高い、IV型ダイアライザーの需要が過剰となり、各メーカーで品不足が発生した。

さらに、今後の薬価改定によっては、今回同様の混乱が起きうる可能性も危惧される。

今回我々は、県内62の透析施設を対象に「薬価改定に伴うダイアライザー管理の実情と、型別の査定結果」について、アンケートによる意識調査を実施したので報告する。

回答が頂けたのは、45施設で回答率は72.6%だった。

今回の改定による型別分類と、価格査定の一覧を図1に示す。

ダイアライザーがV型までに分類され、そのうち面積の分類では従来通り1.5㎡で2分類されている。

今回の改定の特徴は、II型とIII型の1.5未満での1000円以上の切り下げとなる。

I型、II型の中には、膜性能や納入価に差がないものでありながら、これだけの価格差で査定されると「ここは使うな」という、メッセージとも受け取れる。

また、IV型1.5以上は、下げ幅も少なく差益率も高い為、需要が過剰となり、供給停止や品不足が発生した。

当院でもIV型ダイアライザーは、現状維持さえ困難な状況に至り「個々の病態に適した医療材料を提供していく使命」にも支障をきたした。

ここで、ここの一覧より医療のモラルを無視し、利益だけを追求した場合、I型1.5未満へシフトしていけば薬価と差益、双方で収益率は向上する。

査定者側が、小さい面積のI型ダイアライザーに利益誘導しているとすれば、患者や現場にとっては大変迷惑な話となる。

事実I型のみ、面積の大きい1.5以上が、安い査定になっている。

図2は、ダイアライザーの型別分類に関する、各施設での印象を示す。

型別分類が不適正と回答した施設が27施設で60%、不明13、無回答1、適正はわずかに4施設の8.9%だった。

6割以上の施設で不適正との印象をもたれていた。

1.5㎡を境にした2つの面積分類を含め、型別分類の根拠が不透明であることが、このような結果として現れたと考えられる。

価格査定に関する印象を図3に示す。

価格査定が不適切と回答した施設は32施設で71%、不明11、適正はわずか2施設の4.4%に過ぎなかった。

7割以上の施設が、価格査定は不適正との印象を持っていた。

膜の性能評価や分類が、科学的根拠に基づく具体的な査定として反映されていない為ではないかと推測される。

今回の改定によるダイアライザーの採用、選定の見直しに関する回答結果を図4に示す。

全面的な見直しをした施設が5施設11.1%、部分的な見直しをした施設が31施設で68.9%、改定に伴う見直しなしが9施設で20%との結果だった。

8割の施設が改定に伴う見直しを行っていた。

改定後のII、III型1.5㎡未満の対応に関して図5に示す。

全面的な採用打ち切りは17施設で37.8%、過半数で採用を減らした3施設6.7%、一部で採用減11施設24.4%、改定に伴う変更なし13施設28.9%、無回答1施設だった。

全体の7割の施設がII、III型1.5未満に関し採用打ち切り、もしくは採用減を実施していた。はたしてII、III型1.5未満がどこへシフトしたのか興味深いところである。

図6は品不足が問題となったIV型ダイアライザーの供給に関してである。

問題なく供給されたが16施設35.6%、現状維持程度12施設26.7%、品不足発生10施設22.2%、一時的でも供給停止があった7施設15.6%

6割以上の施設で供給に問題があったことが推測される。

図7は患者様の病態に適した医療材料を提供していく義務への影響では、支障を生じた15施設33.3%、支障なし25施設55.6%、不明5施設11.1%

3割以上の施設が、患者様の病態に適した医療材料の提供に影響したと回答している。

図8は今後の薬価改定で、品不足や供給停止の可能性に関してでは、品不足や供給停止を危惧する31施設68.9%、危惧しない4施設8.9%、不明10施設22.2%、約7割の施設が、今後の薬価改定による品不足や供給停止の可能性を危惧するとの結果となった。

新型式	面積種別	旧価格	新価格	差額
I型	1.5㎡未満	¥2,630	¥2,300	¥-330
	1.5㎡以上	¥2,420	¥2,070	¥-350
II型	1.5㎡未満	¥2,750	¥1,660	¥-1,090
	1.5㎡以上	¥2,800	¥1,880	¥-920
III型	1.5㎡未満	¥2,750	¥1,710	¥-1,040
	1.5㎡以上	¥2,800	¥2,220	¥-580
IV型	1.5㎡未満	¥2,750	¥2,240	¥-510
	1.5㎡以上	¥2,800	¥2,350	¥-450
V型	1.5㎡未満	¥2,750	¥2,620	¥-130
	1.5㎡以上	¥2,800	¥2,660	¥-140

図1 型別分類と価格査定一覧

今回の改訂の印象として、不適正が型別分類で6割、価格査定で7割と、現場の不信感はかなり強いことが分かった。

また、8割の施設で改定に伴う見直しを実施し、II、III型1.5未満の引き下げには7割の施設が採用打ち切りや見直しを行っていた。

IV型では、6割の施設で品不足や供給になんらかの問題を被っており、今後の薬価改定で、品不足や供給停止を危惧する施設が7割との結果が得られた。

医療費が国の財政を圧迫していることは周知され、透析患者も増加の一途をたどる事実も否めない。

しかしながら、利益誘導によって「品不足や混乱」や、「医療の質までも下げる」改定や査定があるとすれば、地方といえども声を上げていくべきと考える。

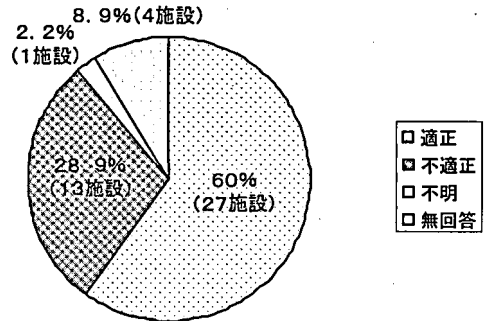


図2 ダイアライザーの型別分類に関する印象

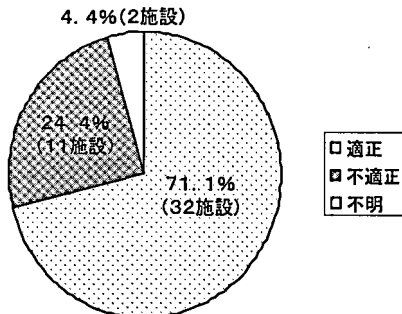


図3 価格査定に関する印象

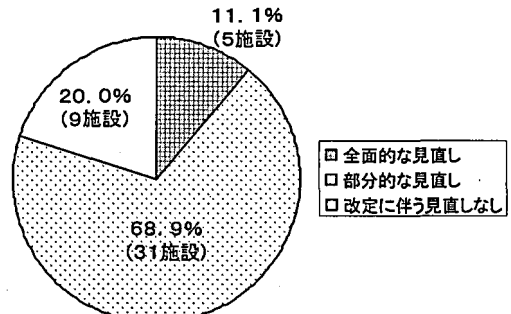


図4 改定によるダイアライザーの採用、選定の見直しについて

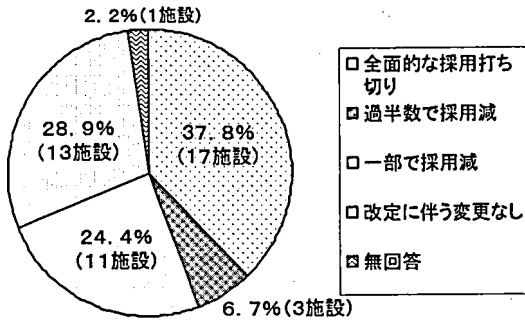


図5 改定後のⅡ、Ⅲ型1.5ml未満の対応に関して

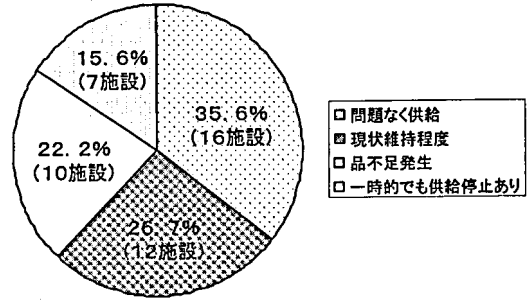


図6 IV型ダイアライザーの供給に関して

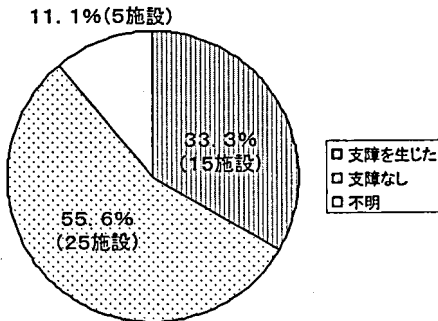


図7 患者様の病態に適した医療材料を提供していく義務について

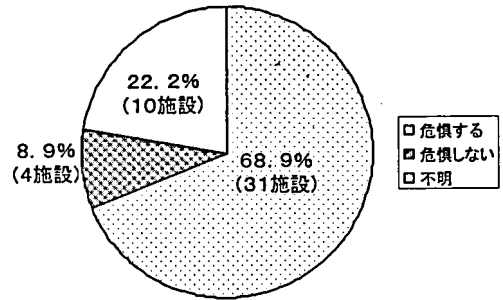


図8 今後の薬価改定で品不足や供給停止に関して